



大阪市立大学地域連携センター開設記念
「地域防災フォーラム いのちを守る都市づくり」の開催について
—地域劇団による地域防災劇「いのちを守るまち（仮）」を上演—

大阪市立大学都市防災研究グループでは、平成23年3月11日の東日本大震災を受けて、横断的組織を立ち上げて、被災地支援・復興支援および地元大阪地域でのコミュニティ防災活動の取り組みを進めてきました。

平成24年度の都市防災研究最終報告会として、平成25年3月16日（土）に「地域防災フォーラム いのちを守る都市づくり」を開催いたします。

<都市防災研究プロジェクト ODRP の取り組み>

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震に端を発する広域複合災害は、我が国の防災基盤を根底から揺さぶり、まったく新しい防災都市への再構築を求めています。

大阪市立大学では「いのちを守る」ことを第一義におき、「医学」「看護学」「生活科学」「都市健康・スポーツ研究」「創造都市研究」「経営学」「経済学」「法学」「文学」「理学」「工学」の分野横断的な研究プロジェクトを立ち上げ、東日本大震災への支援と調査を通して、「いのちを守る都市づくり」の検討を進めることにしました。（参考資料参照）

<平成24年度最終報告会について>

「地域防災フォーラム いのちを守る都市づくり」

日時：平成25年3月16日（土）11時～17時

場所：大阪市立大学 学術情報総合センター10階 大会議室

<https://www.connect.osaka-cu.ac.jp/openlectures/view/42>

「いのちを守る都市づくり」＋「災害知の社会実装」をテーマに、「地域防災劇」、「地域防災まち歩き」、「WebGIS」、「いのちを守るしくみ体験」、「iPadによるいのちを守るカドリル」など、大学のリソースを地域に向けて展開し、子どもや家族を巻き込んだコミュニティ防災への取り組みを紹介します。

また、昨年の「いのちを守る都市づくり【課題編】東日本大震災から見えてきたもの」につづいて、家族でよむ防災読本「いのちを守る都市づくり【アクション編】みんなで備える広域複合災害」を出版します。これに、コミュニティ防災の内容が網羅されています。

避難率の低さ、木造家屋、津波避難、要援護者避難、地域防災リーダーの高齢化など、都市防災の課題は多くありますが、これを行政のトップダウンで解決することは限界があり、新しい仕組みが求められていることは、だれもが分かっていますが、踏み込めない現実があります。その課題に対して、都市大学・大阪市立大学の回答のひとつが「いのちを守る都市づくり・災害知の社会実装」です。

今回のフォーラムでは、全国的にも例のない地域劇団を組織し「いのちを守るまち（仮）」を上演します。その他、体験型ワークショップも行います。子どもから高齢者の方まで幅広い世代にわかりやすく伝えることで「いのちを守る力」の育成の場となることを願い、皆様のご参加をお待ちしています。

■コミュニティ防災活動について

コミュニティ防災活動は、来年度以降、住吉区、住之江区、西成区の3区をモデルにして実践（アクション）する予定で、すでに、3区の区長からの了解は得ています。3区の行政、団体、企業含む都市防災研究協議会（準備会）も設立しました。アクションプログラムは「知る」「考える」「実行する」の段階に分かれます。

【知る】

3区で災害リスクが違うことを「知る」ことが大切です。子どもと家族で理解し、話し合える環境を創る必要があります。住之江は水害・津波、西成は木造家屋の火災、住吉は断層地震など、大学の最新データで分かりやすく伝えます。これには、WebGISを活用します。

【考える】

共通して災害弱者の問題があります。子どもが主体的に、どんな役割ができるかを考える体制が求められます。地域での防災訓練活動に大学も加わり、ワークショップをとおして、リスクとその対応を「考え」ます。「防災まち歩き」のプログラムもこれに含まれます。

【実行する】

「実行する」は、コミュニティ防災スポットなど、地域の環境づくりになります。子どもや学校、そして企業が加わるのが大切です。「いのちを守るカドリル」のプログラムもこれに含まれます。ここに関しては、これからの課題で、行政も含め今後の整理が必要です。大和川中学校や大空小学校などとの連携も想定していますが、具体的な動きは来年度以降です。

以上のようなアクションプロセスをとおして「子どもから、家族や地域の大人に、地域のリスクを問いかけ、共有し、改善する」活動です。

【都市防災研究に関する問合せ先】

都市防災研究プロジェクト事務局 MAIL : bousai.zimukyoku@gmail.com

<地域防災劇「いのちを守るまち（仮）」について>

地域防災劇「いのちを守るまち（仮）」は、コミュニティ防災活動のシンボルおよび核だと位置づけられています。

日時：3月16日（土）13時～14時

（上演後、フォーラムとして体験ワークショップと対談があります）

出演：地域の子ども（5名）から大人までの10数名の多世代劇団

監修：中川 眞（文学研究科 教授）

演出：福島祥行（文学研究科 教授）

内容：防災訓練のTVニュースを見ていたこどもたちが、とつじょあらわれたピーター・パンにつれられて、過去と未来を旅し、そのつど「災害」（太古の恐竜、隕石、戦国時代の合戦、未来都市の感染症）に遭遇するなかで、ただ逃げ惑うだけだったのが、一致団結して立ち向かうようになり、現代にもどってきたところで震災に遭遇、そこでこどもたちは……。というお話です。

工夫や面白み：

住吉区の震災時想定などを取り込んでいます。



練習の風景

住民の関与度：

シナリオづくりは、基本的に住民のみなさんにやっていただきました。われわれは、それを整理して、肉付けしております。このような地域のひとびとと大学のコラボレーションにより、地域のひとびとのなかに、防災意識とあらたなコミュニティが生まれ、このコミュニティが地域防災の拠点となってゆくことが期待されています。

東日本大震災との関わり：

東日本大震災以降の防災の仕組みの変更が求められております。しかし、その具体的動きが少ないのも現実です。その重要な柱の一つが、子どもと家族が主体的に取り組むコミュニティ防災の仕組みです。これは主体性、自らの気づきが最も求められています。今までの行政からのトップダウン防災でなく、ボトムアップ防災の仕組みです。そのための、重要なアイデアとして、年齢に関係なく価値観を共有しコミュニケーションできる劇に行き着きました。手探りですが、すでに練習の中に、地域の中の大切なものや行いを多世代で共有できています。この子供達が10年経つと、地域の防災リーダーになることを期待しています。

独自性：

少なくとも、行政でもなく、住民でもなく、サードパーティーの専門家集団としての大学が、地域防災劇団を立ち上げた事例はないと思います。これは、都市型総合大学（理系と文系の融合）の使命とも言えます。

【地域防災劇に関する問合せ先】

大阪市立大学大学院文学研究科 教授 福島祥行

TEL：06-6605-2454

MAIL：fukushim@lit.osaka-cu.ac.jp

【取材・報道に関する問合せ先】

大阪市立大学広報室 小澤・勝井

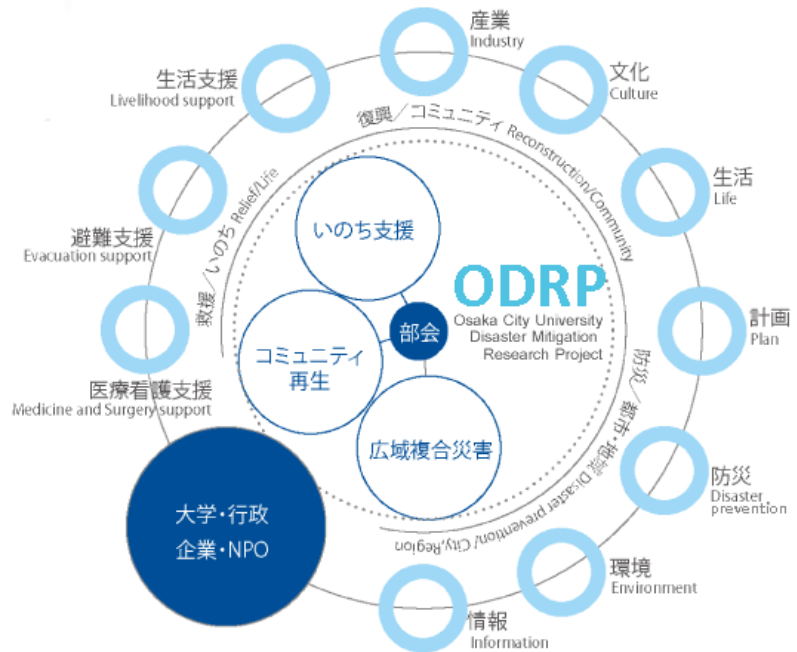
TEL：06-6605-3570 FAX：06-6605-3572

MAIL：t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp

<参考資料：都市防災研究プロジェクト ODRP の取り組み>

■研究体制

研究体制は、想定外の災害に対して、個人・地域・広域という異なるスケールで対応する。具体的には(1)いのちの支援部会：いのちを守る対応行動と支える仕組みづくり、(2)コミュニティ再生部会：防災都市形成とコミュニティの再構築、(3)広域複合災害部会：広域複合災害の実態把握とその対応策、の3つの部会で研究を進める。他大学、企業、NPO、行政などの参加をえながら、横断的な協議会の形式で進める。それぞれの部会の概要は以下のとおりである。



■部会の概要

【いのちの支援部会】



命を守る対応行動と支える仕組みづくりについて検討する。具体的には、避難行動と避難生活支援のあり方に関する研究/外国人等への発災時の情報伝達/避難場所と避難体力に関する研究/医療・看護支援のあり方に関する研究などがある。

【コミュニティ再生部会】



防災都市形成とコミュニティの再構築について検討する。具体的には、商店街と地域コミュニティ/文化財保護、社会的弱者と災害、外国人言語支援/都市行政とコミュニティ、安心社会の法学・政治学的研究/生活基盤の変化とライフスタイル/ボランティア・マネジメントと防災、コミュニティと中小企業・地場企業などがある。

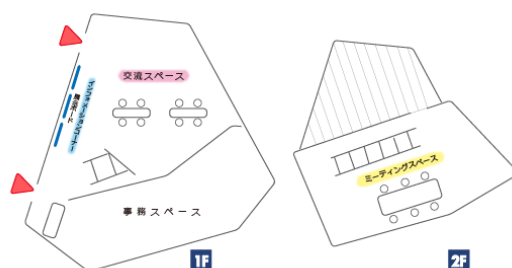
【広域複合災害部会】



広域複合災害の実態把握とその対応策について検討する。具体的には、東北地方太平洋沖地震の被害実態調査と整理/複合的な被害状況の把握/既存被害想定の実態ヒアリング/複合・広域的被災シナリオの検討/予防的処理の提案/発災後の復旧/復興プランスキームの作成などがある。

■大阪市立大学地域連携センターの開設

大阪市立大学地域連携センターは、窓口の機能を強化して地域の皆様との連携を第一とする「地域貢献」、青少年の知的興味を喚起し、進路の選択も視野に入れて高等学校等と連携を図る「小・中・高等学校との連携」、社会人のスキルアップ・地域の方々の生涯学習機会を提供し、地域づくりに貢献できる優れた人材養成をも目指した「公開講座」、都市大阪の研究等を通じて、地域の課題にこたえる「シンクタンク拠点」として、地域の人々の様々な出会いと交流の場の創造に寄与し、地域の活性化、文化の発展に貢献することを目指します。



都市大阪のシンクタンクをめざして、都市課題・地域ニーズに応える拠点

窓口一本化、マッチングにより教員・地域個別のつながりから大学としてのひろがりへ

総合窓口・情報発信



新たな「芽」をとともに育て、さらなるつながりをうむ。



Collaboration and Contribution Center for Community
大阪市立大学地域連携センター